

## ◆ 平成27年度活動報告シート ◆

団体名：不老川流域川づくり市民の会

代表者：代表 丸橋かほる

URL :

### 1. 活動が必要とされた状況

不老川は流域の宅地開発で水質が悪化し、昭和58年からの3年間、全国で水質ワーストワンの川として有名になりました。流域住民は不老川に背を向け、子供達も近寄ろうとはしませんでした。現在の不老川の水質は格段に良くなりましたが、流域住民の意識は、まだまだワーストワンのイメージを引きずっています。私たちはもっと多くの人に不老川の良さと可能性を伝え、良い川づくりに参加する人を増やしたいと思って活動しています。

イベントに参加する人は増えても、自ら積極的に運営しようとする人は少なくなっています。私たちが20年かけて獲得してきた川づくりの成果も、このままでは立ち消えになってしまいます。今、多くの人に川づくりへの参加を呼びかけなければ、後はありません。特にこれからの不老川を担う、若い世代に働きかけることが求められています。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

テーマ「知りたい 知らせたい 不老川のこと」 不老川の啓発活動の進展

#### ①不老川だより「川のささやき」カラー化で発行（10/1、1/20、3/31）



平成9年から年4回発行している不老川だより「川のささやき」をカラー化し、モノクロ写真では表現できなかった河川環境をより明確に伝えた。

73・74・75号各800部を狭山・入間・川越・所沢市の流域公民館、小中学校、図書館、手渡しなどで流域市民に配布した。

#### ②キツネノカミソリ看板の作製（9月14日）

不老川堤防にはキツネノカミソリ（準絶滅危惧種）の自生地がある。そこに15年前表示看板を設置したが、朽腐してきたので新たに作製、再建した。

看板にはキツネノカミソリの説明だけではなく、「川のささやき」やイベントのお知らせ等も随時掲示している。



### 3. 活動の成果

カラー化した「川のささやき」は、手に取った人から良い反応が返ってきます。

また展示した公民館などではモノクロ時代より早くなくなるようです。

看板はキツネノカミソリの保全とともに、地域の人に積極的に管理していただけるようになりました。掲示された「川のささやき」は、散歩中の人々が立ち止まって読んでいます。

### 4. 今後に残された課題

事業の継続：私たちが求める活動の成果は、継続してこそ出てきます。啓発活動をさらに進展させるため、内容の工夫と経済的自立をはかることが課題です。

参加のきっかけづくり：イベント内容等をより若い世代向けに変えていき、参加のきっかけづくりとしたい。